



題字 草原田 親

No. 503

2007/03/05

日中友好協会
岡山支部
〒700-8255
岡山市東区3-8-30-514
TEL. (086) 272-8010
郵便振替口座
01250-0-3835
http://nichong.jp/
index.html



発行所
日本中国友好協会
〒700-8255 岡山市東区3-8-30-514
西暦2007-03-05 第503号

二〇〇七年中国帰国者問題交流会

日中友好協会本部・東京で開催

司法解決と政治解決を車の両輪として

日本中国友好協会本部は、2月24・25日の両日東京で、2007年中国帰国者問題交流会を、一九九八年の京都以来久々に開催しました。

一日目は、千代田区のみまわり会館で午後一時から、三戸(広島)、田淵(東京)を議長に選出してはじまりました。まず、日中カレンダーの収益金の一部五十万円を、田中カレンダー製作委員長が、中国『残留孤児』の人間回復を求める市民連絡会への

田中弁護士に贈呈しました。

全国交流会開催の目的は、中国残留日本人孤児「訴訟」の現状と運動の到達点に立つて、今日の時点で、中国帰国者問題をより正確に掌握し、情勢と帰国者の要求、運動の特徴と課題を明らかにし、今後の運動展開の方向と日中友好協会の果たす役割を明確にすることです。

田中弁護士から、東京地裁判決と全面解決の展望」と題して、大阪・神戸判決と対比しながら東京判決がいかに最低・最悪の判決であるかを説明しました。特に「軍は民を守らなくていい」など暴論に近い内容、また、「満人」鮮人などの差別用語を使い、判決書として配慮に欠ける表現が多いと指摘しました。

一方で、敗訴にもかかわらず、安



倍総理、柳沢大臣が「残留孤児」の代表に合うなど政治解決の動きが、強まっているが、この動きを作り出したのは、神戸判決の力であるし、原告団・弁護士・支援組織の団結した運動とマスコミ報道による「世論の力」であると強調しました。

残留孤児「問題解決のポイントとして、次の四点をあげました。

一、人間の尊厳の回復

①お詫びとねぎらいの表明

②過去の被害に対する賠償

③ 日本人としての尊厳もてる生活」の保障

二、経済的困窮からの脱却と医療介護を含めた老後の保障

(生活保護に代わる孤児を対象とした給付金制度の創設など)

三、日本社会から疎外され、孤立した状況からの脱却

(日本語教育の充実と二世・三世の自立支援及び「残留孤児」問題の歴史を検証し、広く国民に広報して差別・偏見を取り除くことなど)

四、国と孤児との定期的協議機関の設置

最後に、司法解決と政治解決を車の

の両輪とし、当面する左記の判決の勝利をめざして、全力で弁護団としてもがんばりたいとの決意が述べられました。

三月二三日 徳島地裁
三月二九日 名古屋地裁
四月二五日 広島地裁
六月十五日 高知地裁・札幌地裁

その後、若干の質疑があり、各県代表から訴訟支援を中心とした中国帰国者問題への取り組みの報告がありました。

夜は、宿舎の若葉館で各地の代表と「残留孤児」訴訟の支援と日中不戦に基づく日中友好運動について熱く語り合いました。

報告内容及び二日目の討議については、次回報告します。

小林

全面的に棄却だなんて不当!

中国「残留孤児」訴訟—東京地裁判決—

私がボランティアをしている日本語教室の高見さんは、中国「残留孤児」国賠訴訟岡山原告団の事務局長をしています。

高見さんは、1月30日の早朝、岡山原告団を代表して東京裁判の傍聴に出発しました。

先の神戸地裁判決よりも良い結果が出ることを信じて…

岡山在住残留孤児の皆の気持ちを託されて…結果は、全面的に請求を棄却

同日の4時から開かれた岡山での報告集会参加者から「不当判決だ」「強く抗議する」私たちが伝わりました。

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://nichong.web.infoseek.co.jp
新・メールアドレス
nichong86@hotmail.co.jp



おめでとうー!

会員の立石憲利さんが

岡山県文化賞を受賞



日中岡山支部の永い会員、民話研究で有名な立石憲利さん(68歳)が、2月19日岡山県文化賞を受けられました。

立石さんは、岡山民俗学会理事長として、これまでに7000話をこえる民話をあつめて出版、自らも民話の語り部として活躍中です。

また、岡山弁九条を広め、戦争の民話3部作や、奥様のお母さん神野かんの茂子さんが幼児3人をつれて北朝鮮から引きあげてこられた

た、涙と苦難の記録「ぼくは内地に帰りたい」(1994年)も出版されており、おめでとうございます。

スッテンゴウ? 立石さんの本で忘れられないのが『岡山の民話』(岡山文庫39、1997年)です。

30年前に東京から岡山大学に来て、すぐ手にした小さな本。たとえば「桃の子太郎」の話では、大きな桃が、ドンブリコンブリ、スッテンゴウと流れてきたのです。なんだこれ!?

この本に出てくる、ふしぎな、おもしろいオノマトペ(擬音、擬態語)267種を分析して、岡山国語談話会で発表した、なかなかいい思い出がよみがえってきます。

竹内和夫



中国建徳市に桜千本を植える

ボランティア活動 ⑫

杉元 邦太郎

又、第三回目(750本目)の桜植林

(2004年平成16年11月22日)

翌二日目、代表が楊軍市長を表敬訪問したこのとき筆者は二本目の書を頂いた

のち、白砂公園桜花園で植樹のセレモニーが行われた。この日は天気もよく、中国独得の楽隊(銅鑼や笛・太鼓の演奏の中、小学生の花飾りの歓迎の輪を通り過ぎてセレモニーが始まった。挨拶などの後、三々五々今までに植えた友誼林の育ち具合を見て歩いた。

午後は建徳市の「老人ホーム」と乳児院を見学した後、同じ敷地にある小学校を訪問した。中国では一人っ子政策のあおりを受けて、子供

が成人して町から出てしまうと、取り残された老人は世話する者がいなくなる。また一人っ子政策にもかかわらず二人目、三人目が出来ると罰金として高い税金を納めなければならぬ。その結果貧しい家の子供は捨てられてしまう。しかし救いはそれらの施設が町の中心にあり、娯楽捨て山間的隔離生活を強いられないことに感じ入ったところであった。

同じ敷地に小学校があり、そこでは小学生たちがバントントワラーの練習風景や器械体操などをしていてところを覗いて、老人や幼児たちもそれなりに明るい声にはげまされているのではないかと思った。

夜は例によって市の人民政府主催の歓迎レセプションで暮れにいった。今回初めて参加した人たちは、繰り返し行われる乾杯と握手攻めに感激したようである。

翌日から、今まで何回も中国に来ていながら、全員がまとまってゆつくりと杭州の街を観ていないということもあり、杭州と、上海、蘇州を訪ねることに

なった。杭州はそれでも道路沿いは目にしてきていたので、六和塔、西湖などを一周した後、烏珍(杭州)上海の中間に向かった。烏珍は水郷地帯にあるため、大運河の水を引き込んで市内に水路を縦横に巡らし、その周辺に古民家が残っている街である。観光客は運河沿いに散策するのであるが、それらの古民家の一軒を覗くと、紺染屋が仕事をしていたり、別の家の土間では老婆が4人で卓を囲み、マージャンに興じていたりして、生活の匂いがする街であった。昼には田舎料理を食べて上海に向かった。

上海ではまず黄浦江を遊覧する船に乗り、暮れゆく植民地時代の外灘(ワイタン)植民地時代の英仏の租界であった、石づくりの建物がそのまま残っていて、今はスポットライトで照らした夜のデートスポットであり、庶民の憩いの場、散策路になっているのを望みながら船中での飲み放題のクルーズである。皆がデッキに上がって夜景を楽しんでいる。

四日目は蘇州夜曲で有名な蘇州を訪ねた。ここも古い町で、寒山寺や拙政園、そして虎丘の斜塔の見学である。ここは山道のため心臓に自信のない筆者は、二人で担ぐ駕籠(婚礼の花嫁が乗る華やかな駕籠)で麓まで降りてしまうズルをした。夕方上海に帰り、夜は雑伎団のアクロバットを観ながらのディナーショーを楽しんだ。

このとき鄭君(留学生で今は日本の企業に勤めている。第一回目的の時、西子賓館に花を贈っていた)が彼女のお兄さん(一家が訪れてきて、下のカフエでオンザロック(日本でのいつもの癖)を頼んだ。ウェイターは始めは水を入れるのを渋っていたが、無理に水を入れさせたのを飲んだところ、案の定、翌日は下痢である(中国では生水は厳禁)ということを知っていたが、水が生水原料であるとは思

及ばなかった。下痢止めのおかげで下痢は止まり、五日目に上海へ出雲空港で帰国した。

つづく



今年もにぎやかに春節の会

今年もにぎわった春節の会

2月17日に過年好

岡山県留学生学友会主催の会へ

春節のお祝いは留学生の主催の会へ、招かれて出かけます。(望年会は協会主催ですが今年も、中国語講座の受講生4人といっしょに出席しました。

中国の公的行事は新暦(太陽暦)でなされますが、市民は旧暦(太陰暦)の正月に祝います。故郷を離れていた学生や家族は、故郷をめざしていつせいに帰ります。家族が一同に会して盛大な祝杯を挙げるのがこの人たちです。

岡山でも、そのひそみにならって、中国人の各大学の留学生がいつも岡山大学の留学生会館に集まります。国際交流の団体も多く出席して、交流を楽しみます。留学生たちの手づくりの料理も用意され、皆で腹いっぱい(馳走になりました)。

今年の春節は、2月18日といういつもの年より遅い正月でした。暖冬のせいもあるでしょうが、陽射しがまるでほんとうに春を思わせるものがあり、その感を強くしました。

パーティーの終わった後は、大きなスクリーンが用意され、中国の歌番組(日本の紅白歌合戦のような)を皆で楽しんでいました。(さわ)

本部種目別合宿

がんばりました!

広島で太極拳の種目別合宿

2月10日から12日まで広島で太極拳の種目別合宿が開催されました。日頃の講習会で練習できない48式、42式太極拳や32式太極剣の種目を3日間で集中して覚える合宿です。

全国から130人の参加がありました。

岡山支部からは9名が参加しました。昨年の本部太極拳普及30周年記念表演会に参加し、全国の愛好者と交流する機会を得て講習会全体の練習意欲が盛り上がり、やる気満々で望み

ました。岡山支部の参加者は、48式太極拳と32式太極剣に分かれて練習しました。いずれも今回初挑戦の種目です。例えば48式なら48種類の動作があるということですので、多くの経験者の中で初日は四苦八苦しているようでした。しかし、なんと最終日には見様見真似とはいえ、全員最後まで表演することができました。

どちらの参加者も日頃は習えない他府県の指導員に接し目から鱗が取れる体験をし、全国の愛好者との交流も深まり、実り多い合宿になりました。

青木正美

中国語講座

第11期受講生募集!

(07年4月〜07年9月)

発足から6年4クラスから、昼間入門のクラスを含め8クラスになりました。

受講希望の方には詳しい資料をお送りいたします。どしどしご連絡ください。

電話・090-7542-6139

澤山まで

次回の新聞送付作業は

3月12日(月)午後1時半〜

民主会館2階で行います。

前回お手伝いくださった方です。

林和 内製 竹内 服部 小竹 三垣